

# 新たな木質バイオマスの 利用に向けて

岐阜県立森林文化アカデミー

菊地 與志也

先般、他県においてヒノキ樹皮等の未利用の木質資源を用い、障がい者の働く小規模作業所をつくりたいとの相談を受けた。なかなか景気も上向かない中、雇用情勢は厳しいものがあり、弱いところから仕事が切られ大変な状況になっていることであった。

地元の担当者と何をつくれれば良いか、ディスカッションしたところ、ご自宅の新築にも活用した秋田県の企業が販売しているスギ樹皮を用いた木質系断熱材の事例を話された。その方は、ご存じなかったが、その木質系断熱材は、私が秋田木研時代に研究開発したものである。既存の断熱材と比べ結露がなく蓄熱性が高く、リサイクルができ燃焼時にも有害ガスを発生しない。しかも、スギ樹皮を混入することにより、ホルムアルデヒドやアンモニア等の吸着性や抗菌性を持たせた材料で、既存の木質繊維板のプラントを用いることから、設備が要らず低コストで生産が可能である。また、樹皮以外に他の材料へ応用でき、某大手飲料メーカーのお茶殻リサイクルプロジェクトの一環としてお茶殻をまぜた機能性を持つ畳(中芯材料)として全国展開・販売されている。さらにスギ樹皮等の未利用資源の大きな方策として、木質バイオマス発電所の建設も行い、スギ樹皮の総合利用に取り組んできた。岐阜にきてからも県内外の木質バイオマス

エネルギーの計画に携わっており、新しいビジョンやアイデアや方法について、地域の方々と仕事を進めてきている。

森林・林業白書によれば、約2000万m<sup>3</sup>の林地残材(我が国の木材需要量は、現在、約8400万m<sup>3</sup>)があり、木質バイオマスの利用は、燃料や化学工業原料として製紙や建築に匹敵するだけの大きな木材の潜在的な需要が見込まれると思われる。その反面、木質バイオマスエネルギーも含めて未利用資源の利活用は、簡単なものではないということを言い続けている。というのも、我々の仕事は、机上や実験室だけでは仕事ができない。生産技術や販売、経営、投資するだけの利益もあげなければならない。絶対的な技量と価値観だけでなく、お金をかけず、地域に役立ち、シンプルで、地域に展開できるシステムや仕組みづくりが必要である。その一方で、社会的な目的や意義、必要性、何よりも夢を持つことが大切である。現在、地域資源を活かして森林や環境、産業や福祉等、地域づくりを行う社会貢献産業づくりを進めている。本学では、地域の連携を図り様々なプロジェクトに教職員や学生が取り組んでいる。

今、我々が、森林や地域のために何をなすべきか、一緒に考えてみませんか。

## スギ樹皮の総合利用(エネルギー・マテリアル)

みんなで新しい木質バイオマスの利用について考えてみよう!

